

柏木教会月報 10月号

東京都新宿区北新宿3-1-18 ☎03-3368-2156 www.church.ne.jp/kashiwagi/

旅人の教会として

—教会建設七八周年記念礼拝説教—

マルコによる福音書三章七～一二節

牧師 富永 慶司

イエスは弟子たちと共に湖の方へ立ち去られた。ガリラヤから来たおびただしい群衆が従つた。(七節)

本日は、創立記念礼拝です。先達たちが志と幻をもつて建てようとした真実な主の教会とはどういうものであつたか、み言葉によつて改めて示されたく思います。

旅人の教会

主イエスは、これまでユダヤ教会堂を中心に伝道なさいました

ましたが、ファリサイ派の人たちが、「どのようにしてイエスを殺そくかと相談し始め」(前回説教の六節)るに及び、

「湖の方へ立ち去られた」(七節)のでした。実際、これ以降、主イエスは会堂には戻られませんでした。これは、「会堂追放」処罰、いわゆる村八分処置ではないかと想像する人もいます。ともあれ、こうして主イエスとお弟子たちは地上の旅人となられました。

わたしもまた、世に属さず、主と共に神の国を目指して旅する群れなのです。世にしがみつかず、後ろのものを忘れて、旅人の教会として進み続けていくのです。

キリストが中心に立つ教会

ところで、当時のユダヤ会堂に象徴された公の場所から、主イエスとお弟子たちが追放されたとき、礼拝もできなくなつたというのではあります。そのとき、湖が礼拝場所となりました。荒れ野が教会となりました。主がおられるところ、そこに礼拝が出来事となり、教会が出現するのです。わたしども、キリストが常に中心に立つ礼拝、文字通りに主の教会を目指すのです。

みことばの教会

その主は、さまざまな願いをもつて集まつた人々に、何よりも「み言葉」を与えられました。ペトロも、金銀はわたしにはない。わたしにあるものをあげようと言つて、主の名によつてみ言葉を告げたのです(使徒三・六)。主のみ言葉だけが真実に人を救い、生かすのですから、常にみ言葉を告げる伝道の教会でありたいと思います。

世界教会の幻

最後に、主イエスのところに集まつた人々の出身場所は多様であり、民族の違いもありました(七、八節)。

主の教会は、さまざま民に開かれた場所です。たとえ日本にあって日本人しか出席しない教会でも、だからといって気の合つた仲間内だけが満足している交わりなら、それは真実の主の教会とは言えません。主は、教会にいろいろな違いをもつた人々、いろいろな国や地域から來た人々さえも一つとなることができるような普遍的な教会を求めておられます。柏木教会もまた、この柏木の地にあつて、世界のキリスト者たちに開かれた、眞に世界教会と言える主の教会を目指したく思います。